

## 「備える」ということ ②

誰もが安心して歳を重ねていくためには「家族を前提としない仕組みが必要」という認識が広がってきています。こうした仕組みの構築のためには、元気なうちに人生の後半を自分自身でデザインする「備え」をしておく人を一人でも増やすこと、それでも「備え」が間に合わなかった・十分でなかったなどの理由で、実際に支援を要する時期になったときに顕在化するケースに対応することという、「備えの時期」と「支援が必要な時期」の2つの時間軸で整理することが大切です。



後者の「支援が必要な時期」になると、本人はすでに判断力が低下し始めていることも多く、自分自身で対応策をすべて理解し選択して自己決定することは難しくなっているでしょう。とすると、頼れる家族のいる人は、家族が意思決定の主役となり家族まかせでその後の本人の生活が維持されることとなるし、そもそも家族がいない人やいても頼れない人は、医療福祉や介護の関係者の多職種連携のシャドウワークに頼らざるを得ません。

したがって、「備えの時期」に備えておくことの必要性を周知していくことが、今後、最も重要となります。もちろん「支援が必要な時期」のセーフティネットは必要ですが、「別に備えなどしていなくても、いざという時は誰かが何とかしてくれる」「最後は行政が何とかしてくれる」という安易な意識に流れることは避けなければなりません。

「備えの時期」に備えておくメリットは、自分の人生の後半を、他人事や家族まかせではなく「自分ごと」にできることです。ただし「備え」と言っても、いつ何があっても本人の事前の自己決定が尊重されやすいフルサポートの備えもあれば、ほんの一部だけの備えもあります。備えたいと思う人が、すべてフルサポートの備えが出来ればよいのですが、フルサポートの備えのためにはもちろんそれなりの資金的余裕が必要ですから、料金を支払って得られるサービスに差が出てしまうのは、致し方ないことです。

これまでは、こうした考え方が一般的になっておらず、家族が当たり前が無償でやってきたことを、事業者が「事前の備え」としてサービス提供するときには、そのサービスの質には言及されず、フルサポートをいかに安価で提供するかということにばかり注目されてきました。

今後、こうした事業者に対するガイドラインが国から近く発表されることとなり、事業者側（株式会社 OAG ウェルビーR も当該事業者です）も襟を正して、適正なサービスをそれぞれの質に見合った料金で提供することで、安心して「備え」のためのサービスを提供する事業者を選択できるようになることが大切です。

その一つの選択肢が、株式会社 OAG ウェルビーR です。ウェルビーR が、これから人生の後半を自分ごととして尊厳を守るための安心の「備え」を、ひとりでも多くの方々に提供してまいります。